Ichikawa General Hospital News
issou
2023.10
Vol.50
東京歯科大学市川総合病院ニュース
発行：東京歯科大学市川総合病院広報委員会

DATA：リプロダクションセンター
●施設認定：生殖補助医療実施医療機関、日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設、千葉県特定不妊治療指定医療機関、千葉県小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業指定医療機関、日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設

◀診療科 HP

抗がん剤治療前の妊孕性温存療法に注力

女性・男性の不妊外来が一丸となり総合的な不妊治療を提供

当院の不妊治療は 40 年以上の歴史があり、1982 年に日本で2例目となる体外受精の成功、1989 年に凍結受精卵移植によるわが国初の双生児の誕生などの実績があります。また、男性不妊治療がまだ一般的でない 20 年以上前から男性不妊症に着目し、精索静脈瘤の治療を始め、乏精子症や無精子症に対する精巣内精子採取術（TESE）を行ってきました。2002 年にはリプロダクションセンターを開設し、それまで女性不妊は婦人科、男性不妊は泌尿器科と、別々に行っていた診療を一つのセンターで担うことで、治療中のパートナー同士※の状況を把握しやすくなり、より迅速かつ適切な不妊治療を提供できる体制となりました。

現在、リプロダクションセンターには産婦人科と泌尿器科の医師が在籍し、年間の初診患者数は、女性・男性を合わせて 200 ～ 300 件、外来患者数は月延べ 1000 人以上にのぼります。年間の人工授精件数は約 150 件、体外受精・顕微授精も合わせて約 150 件となっています。

※婚姻関係・事実婚関係を指します。

若年がん患者さんに対する妊孕性温存をサポート

近年、がん治療の発展に伴いがんサバイバーが増え、若年がん患者さんの QOL が重要視されています。この流れを受け、リプロダクションセンターではがん生殖外来を設置し、将来お子さんを希望する若年がん患者さんの相談や、妊孕性温存療法の治療を行っています。私は婦人科の腫瘍とがん生殖を専門にしているため、今回は女性患者さんのお話を中心にさせていただきます。

当院で妊孕性温存療法の対象となる女性患者さんは、悪性腫瘍や血液疾患と診断された 20 ～ 45 歳

までの患者さんで、ご本人が将来妊娠・出産を希望される方です。原疾患の抗がん剤治療や放射線治療などにより妊孕性が低下する可能性がある方で、原疾患の主治医より妊孕性温存療法の治療が可能と判断された場合に限ります。また、不妊治療による原疾患の増悪の可能性がないことや、長期予後が望めることも適応要件としています。がん患者さんのほかにも、自己免疫疾患と診断された患者さんも適応となります。

これからがん治療を始める患者さんが将来妊娠・出産を希望されている場合、がんの種類や治療方針などを原疾患の主治医と共有し、その患者さんに適した妊孕性温存療法を選択していきます。総合病院である当院は、他診療科と連携が図りやすいため、原疾患の治療と同時進行で妊孕性温存に向けた必要な検査や治療をスムーズに進められ、さらに妊孕性温存療法の目途が立ち次第、原疾患の治療を再開できることが強みといえます。

妊孕性温存療法の治療は、一般的な生殖補助医療と同じ流れで、体外受精や胚移植を行います。ただし、患者さんに配偶者がいる場合、多くは受精卵にして凍結しますが、そうでない場合は未受精卵の凍結に限ります。

issou Ichikawa General Hospital News
vol.50

がん相談支援センターと連携し課題解決へ

リプロダクションセンター

早期原疾患治療を考慮した ランダムスタート法で採卵を行う

妊孕性温存療法で一番の課題となるのが時間です。がんの進行を考えると一刻も早く妊孕性温存の治療を進めなくてはいけません。特に血液疾患などは、診断後すぐに化学療法を始めることが望ましいとされているため、当院ではランダムスタート法という採卵法を採用しています。通常は月経後から排卵誘発剤を使用するため、開始時期によっては最大で採卵まで6週間ほどかかります。一方ランダムスタート法は、月経周期とは関係のないタイミングから卵巣刺激を開始できる迅速な採卵方法で、約2週間で採卵が可能となります。ランダムスタート法は、迅速な治療が求められるがん患者さんにおいて、有用な採卵法であるといえます。

妊孕性温存療法の課題は、時間的猶予がないことのほかに、患者さんの金銭的負担や情報不足も挙げられます。当院は地域がん診療連携拠点病院に指定されており、がんの相談窓口としてがん相談支援センターを設置しています。治療や療養生活への不安や悩み、助成金の申請、情報収集のサポートなど、がん看護専門看護師や医療ソーシャルワーカーがお応えしています。医師だけでなく、専門の看護師・相談員とも連携し、チーム一丸となって患者さんの治療サポートに努めています。

がんになっても将来 子どもを持つ希望を叶えるために

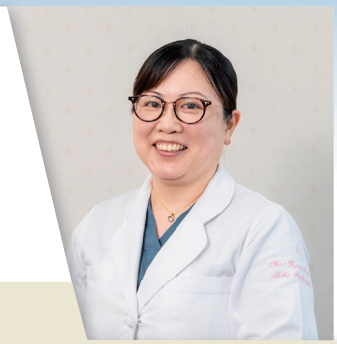
将来お子さんを持つという可能性を広げる妊孕性温存療法ですが、あくまで原疾患の治療が最優先となります。そのため原疾患の主治医と治療方針やスケジュール、予後などを常に共有し、患者さんやご家族とは希望や悩み、不安に寄り添えるような診療を心がけています。

女性は受精卵・未受精卵凍結、男性ならば精子凍結をしておくことで、「がん治療に前向きになれる」「未来を生きる希望となる」とおっしゃる患者さんがいます。まずは話だけ聞いてみたいといった相談のみの患者さんにも、当センターの医師や看護師が柔軟に対応していますので、原疾患があり妊孕性について心配がある患者さんがいらっしゃいましたら、当院へご紹介ください。妊孕性温存療法の対象になるかを踏まえながらお話しさせていただきます。

がん治療と生殖医療が共に進化し、診療科の垣根を超えた治療が必要とされている時代だからこそ、地域医療機関の先生方のお力もお借りし、妊孕性温存療法の選択肢を患者さんへ広く知っていただくことで、患者さんが安心して治療に専念できる医療の提供を目指してまいります。

Dr's profile

Shiho Hashimoto
橋本 志歩 医師



出身地
千葉県船橋市
ゆかりの地は大学時代に暮らしていた秋田県秋田市

趣味
お菓子作り（フルーツタルトやチーズタルトを娘2人と一緒に作るのが休日の楽しみ）

習い事歴
中学・高校時代はバイオリンを習っていた

医師になったきっかけ
理工学部を卒業後、人の役に立てる医療分野に興味があり医学部へ進学した

好きな言葉
人事を尽くして天命を待つ
（限られた時間の中でできる限りの努力をするのがモットー）

【掲載写真について】感染症対策を行ったうえ、撮影時のみマスクを外しております。

『issou』では毎号読者アンケートを行っております。
広報誌の質向上のため、下記二次元コードよりアンケートの回答へご協力をお願いいたします。

本号に関するご意見をお寄せください

医療機関の先生方へ

市川総合病院　初診事前予約申込書　検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者さんのご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。
ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151（内線2214） FAX 047-324-8539

開室時間　月曜日～金曜日：午前9時～午後5時　土曜日：午前9時～12時（第2土曜日は休診日）